

第5章 Java ポリシーの設定

5. 1 Java ポリシー設定ツールのダウンロードと解凍

Java のインストールが終了致しましたら、電子入札システムポータルサイトより Java ポリシー設定ツールをダウンロードします。Java ポリシー設定ツールは、OS のバージョンによって異なります。適切なものをダウンロードしてください。

- Window10（32bit 版）の場合は、
「Windows10（32bit）JavaPolicy 設定ツール」
- Windows 10（64bit 版）の場合は、
「Windows10（64bit）JavaPolicy 設定ツール」

- （1）電子入札システムポータルサイトから Java ポリシー設定ツールをダウンロードします。
Internet Explorer 画面の下に下記メッセージが表示されます。
任意の場所にファイルを保存してください。



図5.1-1 ファイルのダウンロード

- （2）保存した Java ポリシー設定ツールをダブルクリックで開きます。



図5.1-2 Java ポリシー設定ツール

- (3) 下記画面が表示されます。参照ボタンを押下すると、「図 5.1-4 フォルダ指定画面」が表示されるので、保存先を指定し「OKボタン」を押下します。
「展開」ボタンを押下します。

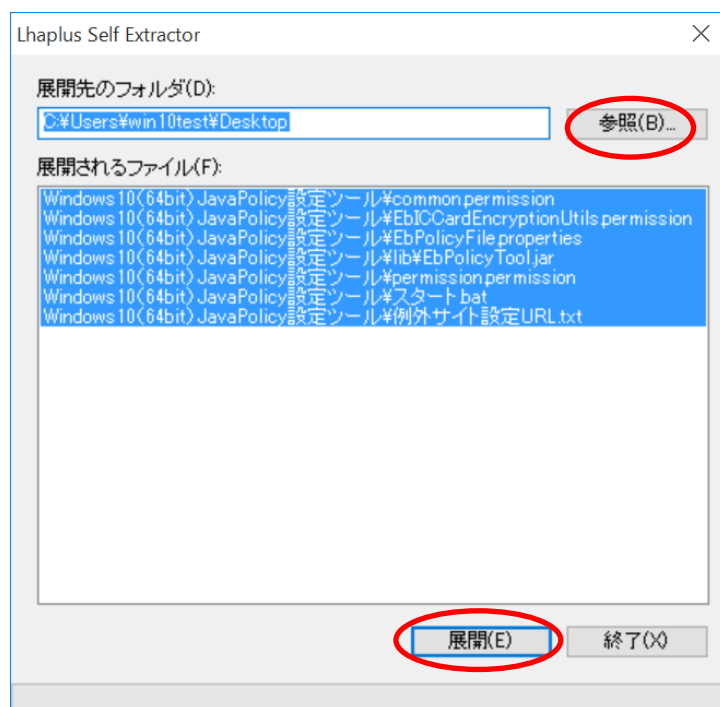


図5.1-3 ファイルの展開先（保存場所）指定画面

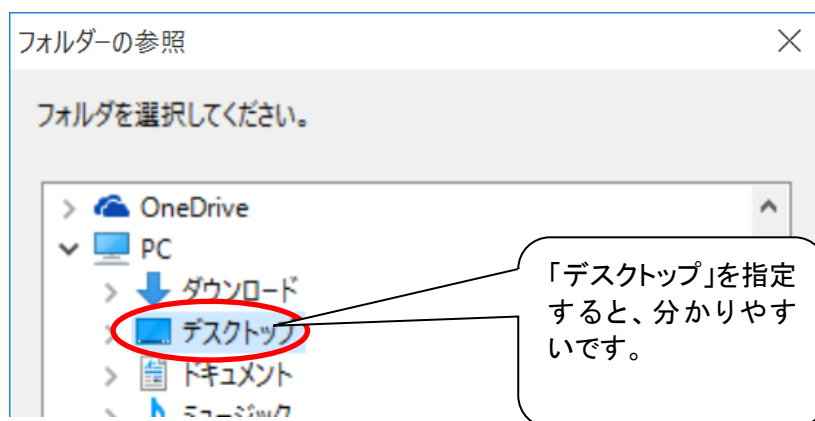


図5.1-4 フォルダ指定画面

- (4) 上記で選択した保存先に、解凍したファイルが作成されます。
Java ポリシー設定ツールはダウンロードしたツールと同じ名称のフォルダが作成されます。

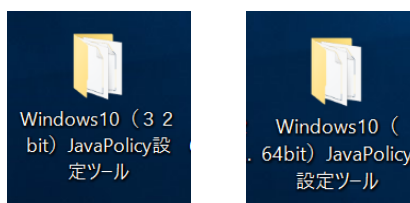


図5.1-5 JavaPolicy 設定ツール フォルダ

5. 2 Java ポリシーの設定

- (1) 5.1 で解凍したフォルダの中の「スタート.bat」を右クリックし、「管理者として実行」をクリックします。

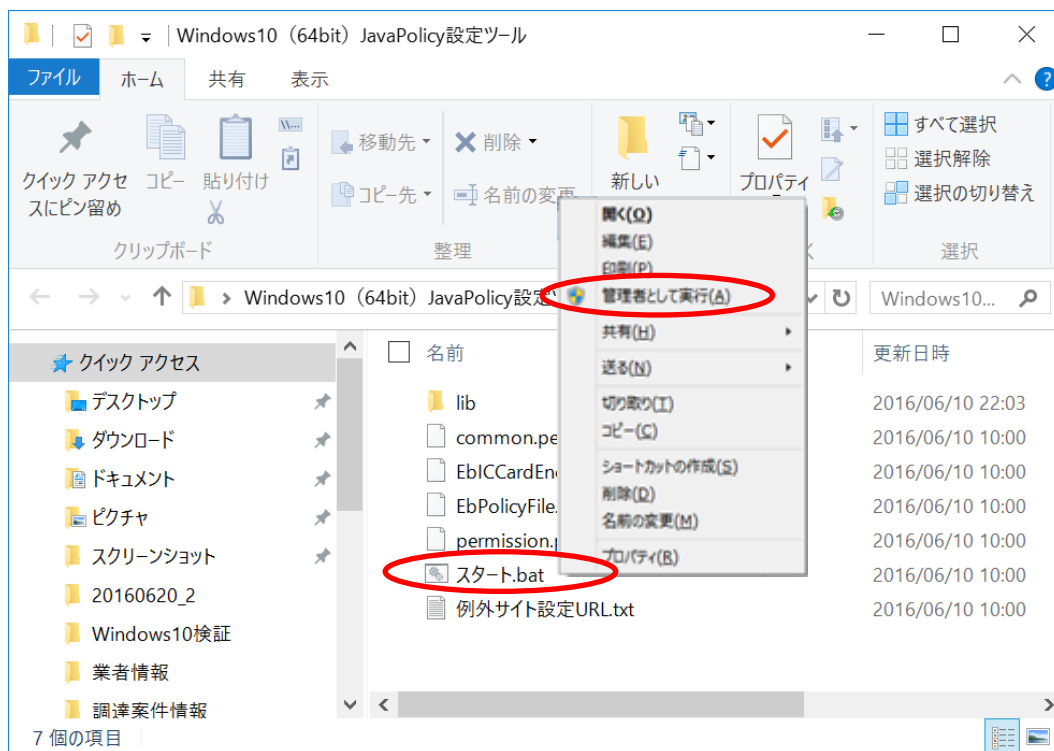


図5.2-1 JavaPolicy 設定ツールフォルダ画面

※下記の「図5.2-2 ユーザーアカウント制御画面」が表示された場合は、「はい」をクリックしてください。

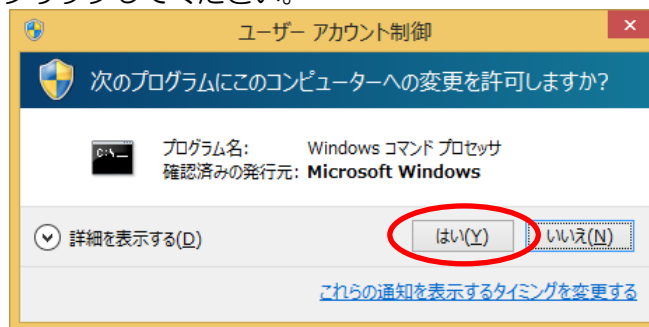


図5.2-2 ユーザーアカウント制御画面

注意

上記のユーザーアカウント制御画面で「はい」ボタンをクリックした後、登録に失敗した場合、ユーザーアカウント制御機能を無効にする必要があります。ユーザーアカウント制御機能を無効にする手順は、補足1を参照してください。

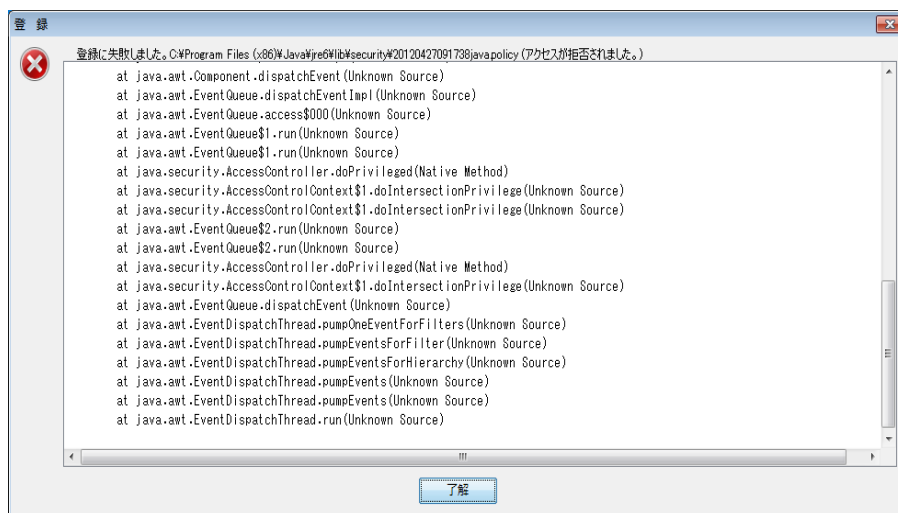
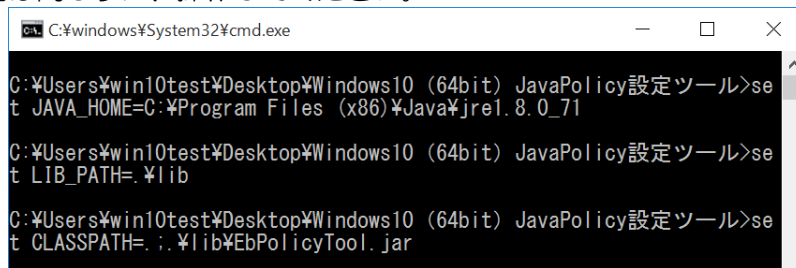


図5.2-3 エラー画面（例）

※Java ポリシーの設定が完了したら、ユーザーアカウント制御機能を元の状態に戻し、パソコンを再起動してください。

- (2) 下記のような黒い画面と JavaPolicy ファイル設定ツールが表示されます。
黒い画面は閉じずに、操作してください。



```
C:\windows\System32\cmd.exe

C:\Users\win10test\Desktop\Windows10 (64bit) JavaPolicy設定ツール>set
JAVA_HOME=C:\Program Files (x86)\Java\jre1.8.0_71

C:\Users\win10test\Desktop\Windows10 (64bit) JavaPolicy設定ツール>set
LIB_PATH=. \lib

C:\Users\win10test\Desktop\Windows10 (64bit) JavaPolicy設定ツール>set
CLASSPATH=.;.\lib\EbPolicyTool.jar
```

図5.3-4 スタート.bat 実行画面

- (3) JavaPolicy ファイル設定ツール（画面説明）



図5.3-5 java.policy ファイル設定ツール画面①

<項目内容>

- ①発注機関名称
設定を追加する発注機関の名称を入力します。
- ②発注機関 URL
追加する発注機関から提示されている URL を入力します。
- ③登録ボタン
入力した名称と URL を用いて、java.policy ファイルに設定を追加します。
- ④終了ボタン
このツールを終了します。
- ⑤ポリシーファイルの参照ボタン
java.policy ファイルの内容を表示します。
- ⑥登録済み発注機関リスト
登録済みの発注機関名称の一覧を表示します。
- ⑦削除ボタン
登録済み発注機関リストで選択した発注機関に関する設定を削除します。

※java.policy ファイル設定ツールを実行する場合は、管理者権限のユーザにて実行して下さい。

(4) 下記の＜操作手順＞①～⑤にそって登録してください。



図 5.3-6 java.policy ファイル設定ツール画面②

＜操作手順＞

- ①発注機関名を入力します。(例：〇〇〇〇市)
- ②発注機関 URL に「https://www.ebs-asp.fwd.ne.jp/CALS/」が表示されていることを確認します。
- ③登録ボタンを押します。
- ④確認画面です。
登録する場合は「はい」ボタンを押します。

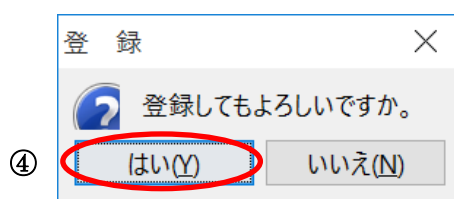


図 5.3-7 登録確認画面

- ⑤登録済み発注機関に①で入力した内容（例：〇〇〇〇市）が表示されたら登録完了です。
なお、本ツールにより、java.policy ファイルを変更するたびに自動的にバックアップファイルが作成されます。

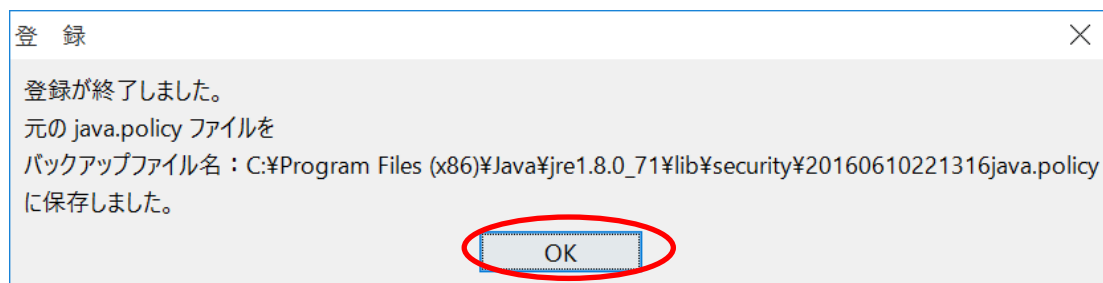


図 5.3-8 登録完了画面

補足1 ユーザーアカウント制御機能の無効化

注意

この作業は、Java ポリシーの設定に失敗した場合のみ、行ってください。
Java ポリシーの設定が完了したら、必ず元の状態に戻し、パソコンの再起動を行ってください。

(1) スタートメニューを右クリックし、「コントロールパネル」を開きます。

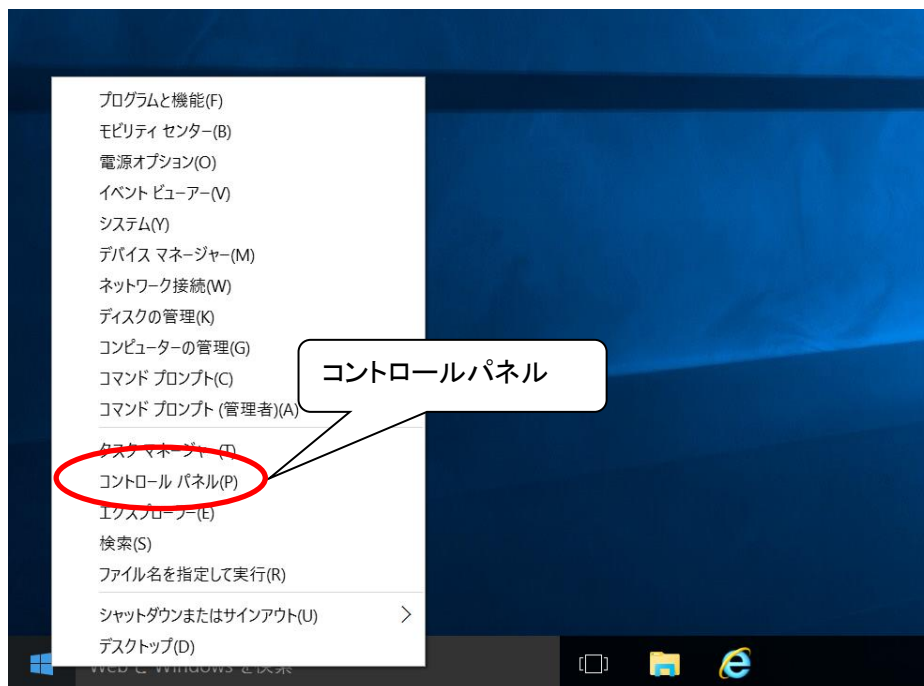


図 補足.1 コントロールパネル呼び出し画面

(2) 「ユーザーアカウント」を開きます。



図 補足.2 コントロールパネル画面

(3) 「ユーザーアカウント制御設定の変更」を開きます。



図 補足.3 ユーザーアカウント画面

(4) 「ユーザーアカウント制御」ダイアログが表示されるので、「続行」ボタンをクリックします。
ユーザーアカウント制御の設定画面が表示されるので、ゲージを「通知しない」までスライドさせ、「OK」ボタンをクリックします

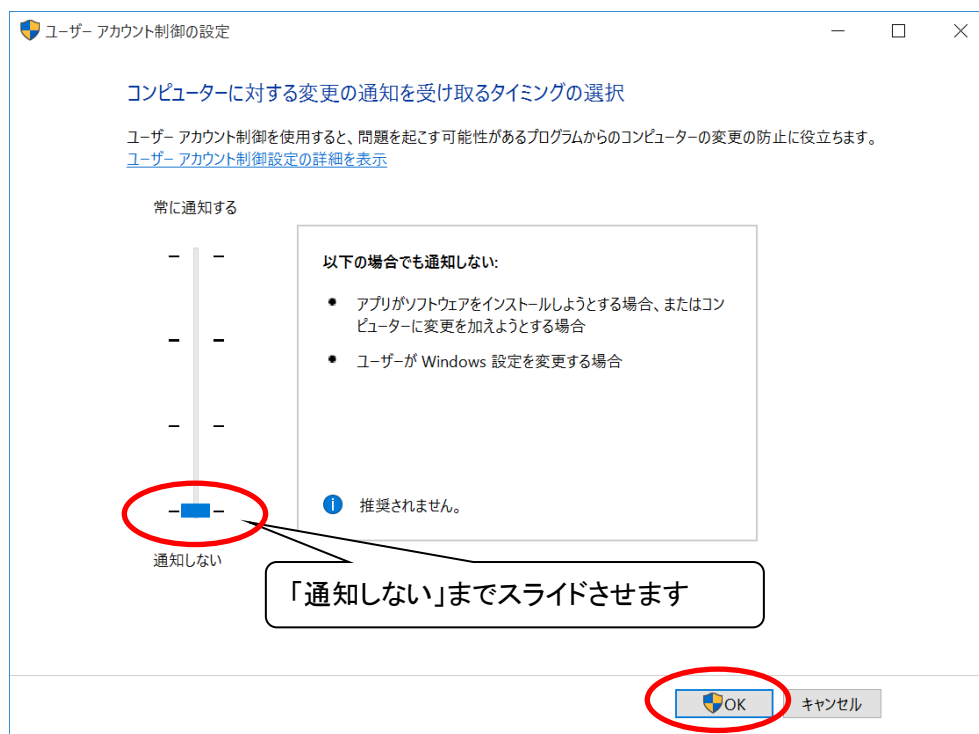


図 補足.4 ユーザーアカウント制御の設定画面

(5) 「OK」ボタンをクリックすると、
「ユーザーアカウント制御を無効にするには、コンピュータを再起動する必要があります」とメッセージウィンドウが表示されますので、メッセージをクリックしてパソコンを再起動してください。

第6章 Java の設定

6. 1 Java 環境の設定

インストールした Java が自動で更新されないよう設定を行います。

(1) スタートメニューより「コントロールパネル」を開きます。

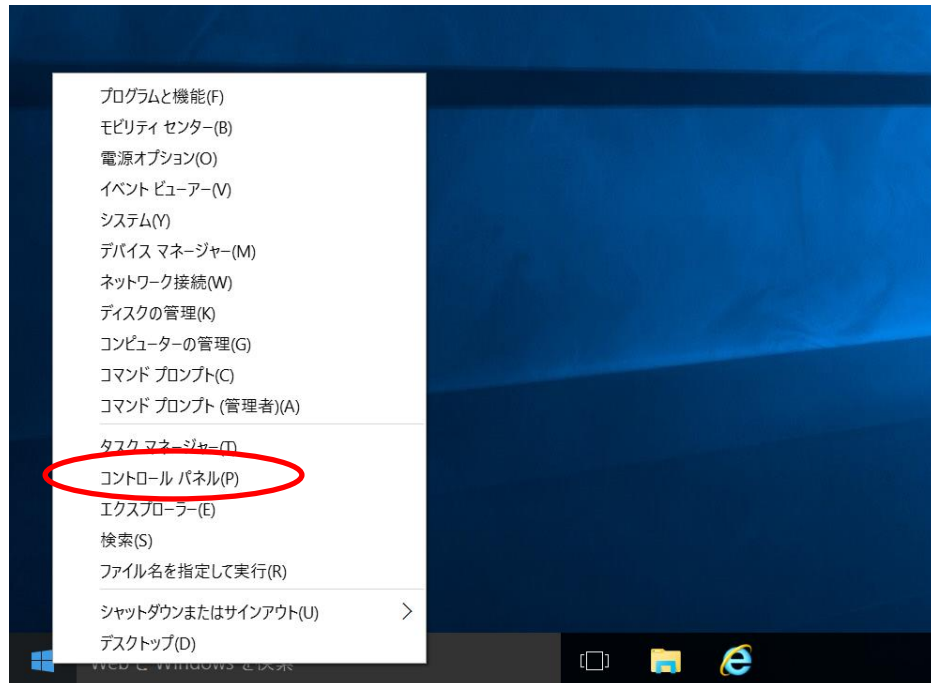


図6.1-1 コントロールパネル画面呼び出し

(2) 以下の画面が表示されます。「Java」をダブルクリックします。

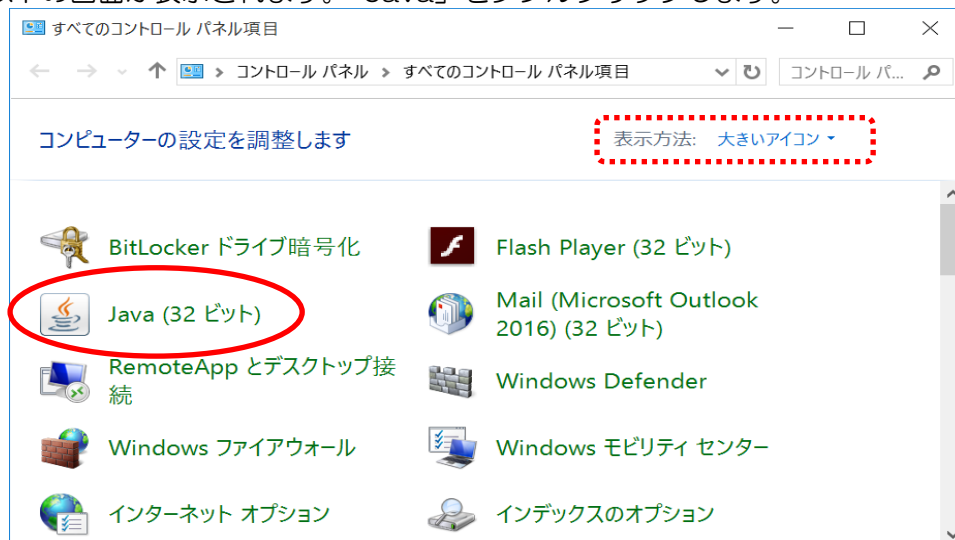


図6.1-2 コントロールパネル

(3) 以下の画面が表示されます。「更新」タブをクリックします。

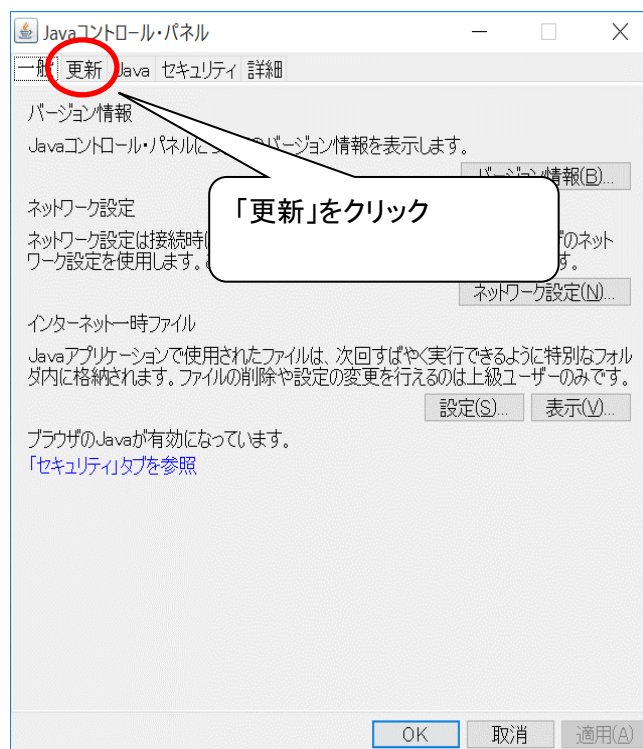


図6.1-3 Java コントロールパネル①

(4) 以下の画面が表示されます。「更新を自動的にチェック」を外します。
(既にチェックが外れている場合、「6. 2 例外サイト・リスト」の設定に進んでください。)

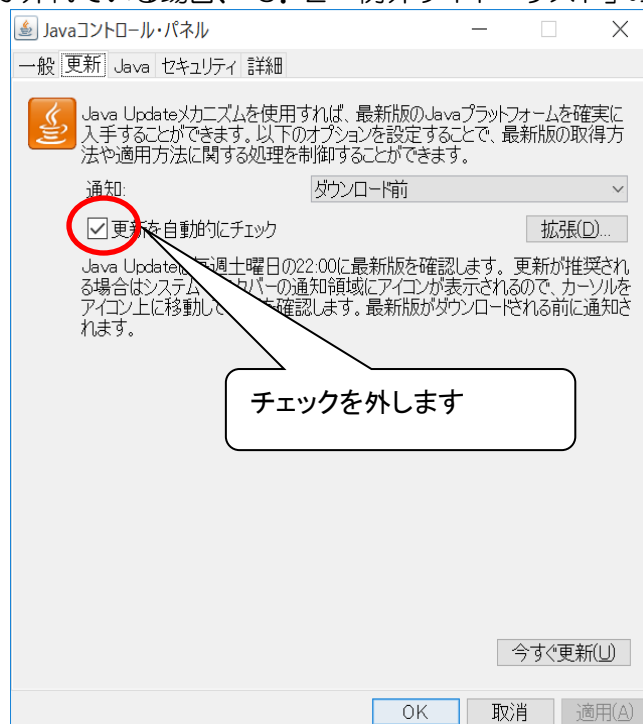


図6.1-4 Java コントロールパネル②

(5) 以下の画面が表示されますので、「チェックしない」を選択します。

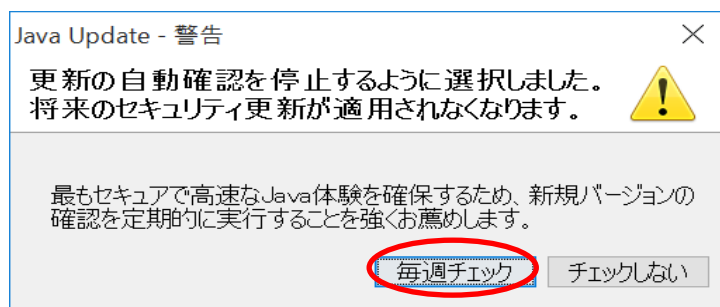


図6.1-5 Java コントロールパネル③

(6) 以下の画面が表示されます。チェックが外れたことを確認します。

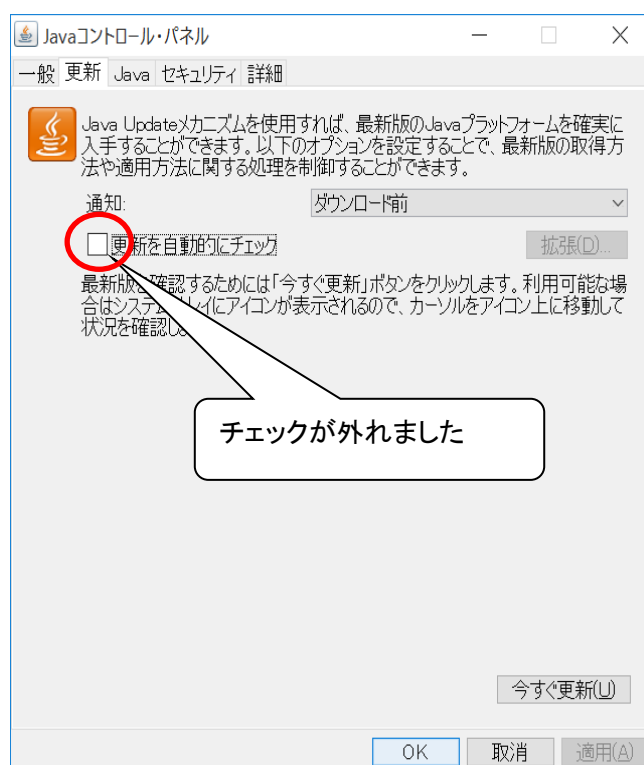


図6.1-6 Java コントロールパネル④

6. 2 例外サイト・リストの設定

電子入札システムを使用するために、「例外サイト・リスト」の設定が必要となります。

(1) Java コントロールパネルを開きます。「セキュリティ」をクリックします。

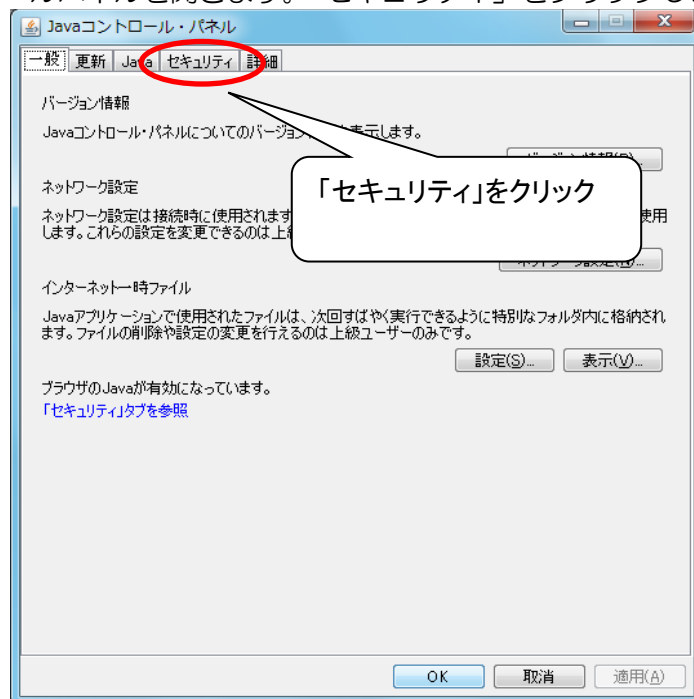


図6.2-1 Java コントロールパネル①

(2) 「サイト・リストの編集」をクリックします。

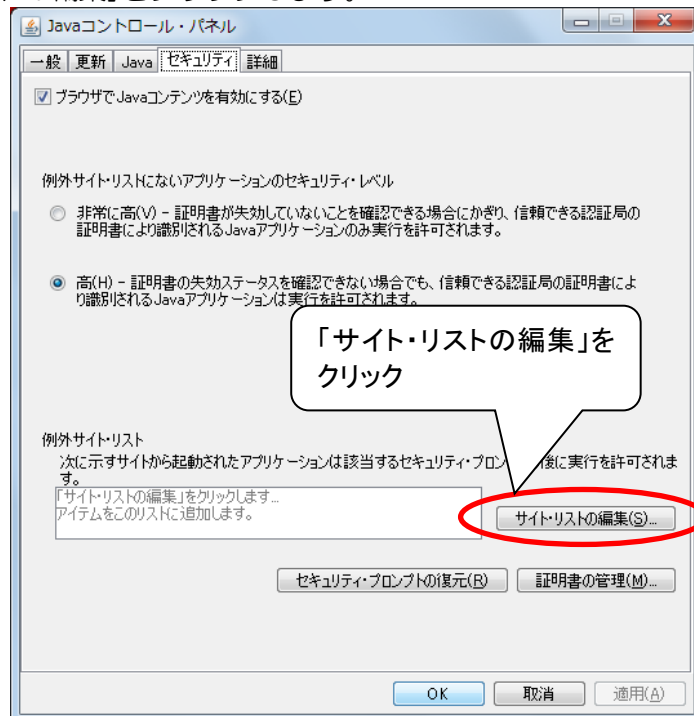


図6.2-2 Java コントロールパネル②

(3) 「追加」 ボタンをクリックします。

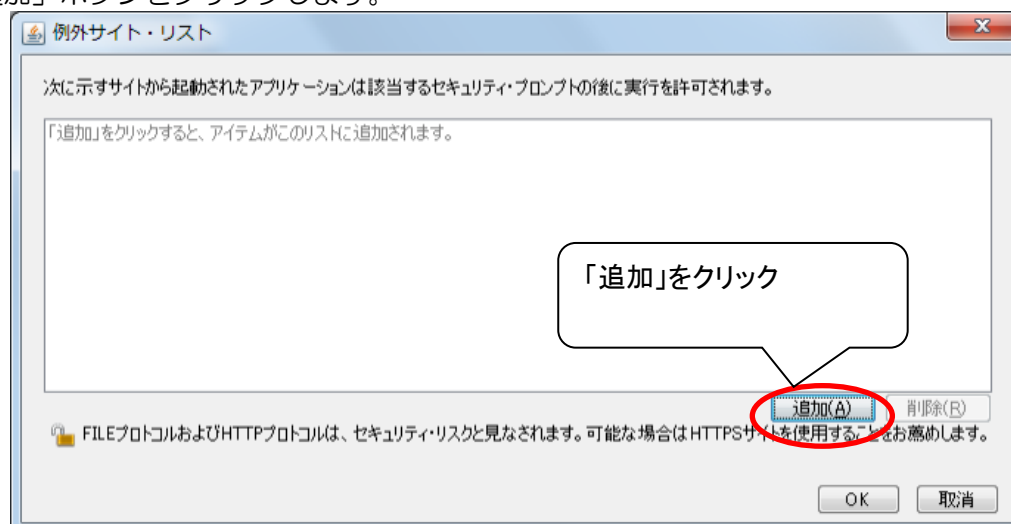


図6.2-3 Java コントロールパネル③

(4) 「場所」 欄が表示されます。

Java のフォルダ名およびご利用頂く電子入札システムの URL を登録します。

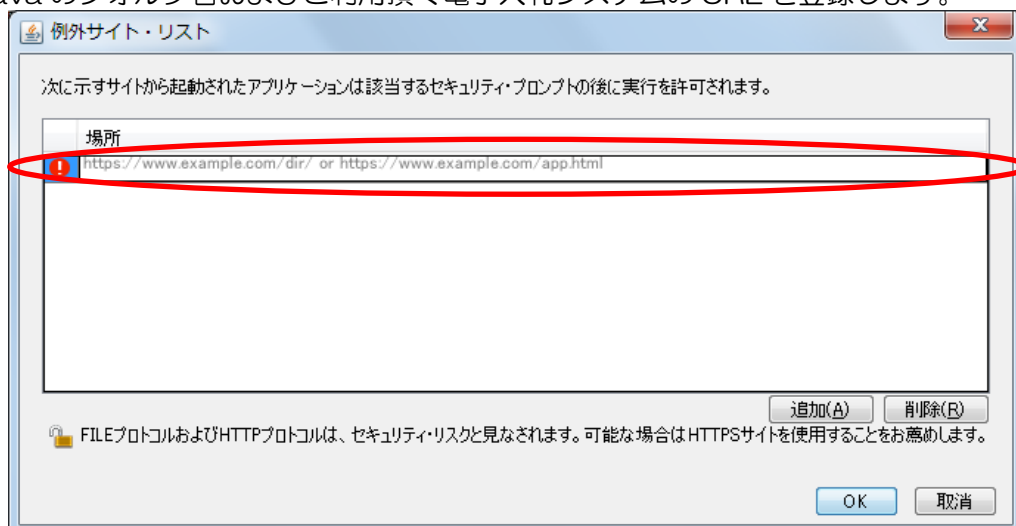


図6.2-4 Java コントロールパネル④

(5) 第5章でダウンロードした「JavaPolicy 設定ツール」フォルダを開きます。
フォルダ内の「例外サイト設定 URL.txt」を開きます。

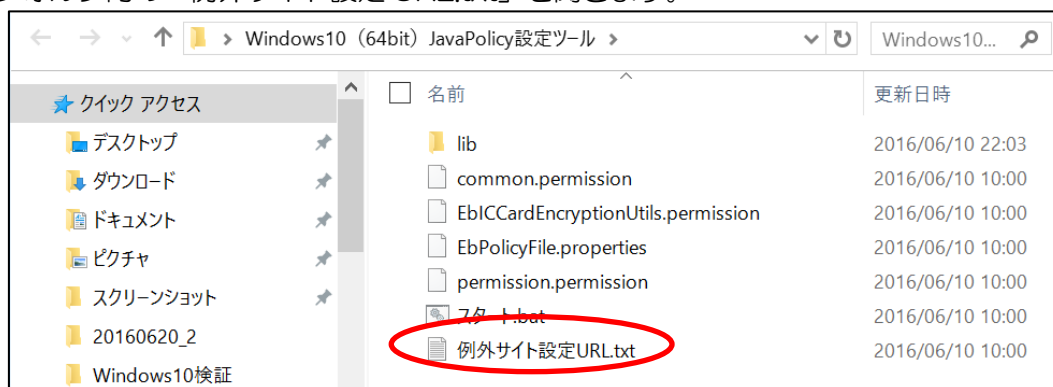


図6.2-5 JavaPolicy 設定ツールフォルダ

- (6) 「例外サイト設定 URL.txt」内の URL を1行ずつコピーし「例外サイト・リスト」の「場所」に貼り付け、「追加」ボタンをクリックします。
同じ操作で2つの URL を追加してください。

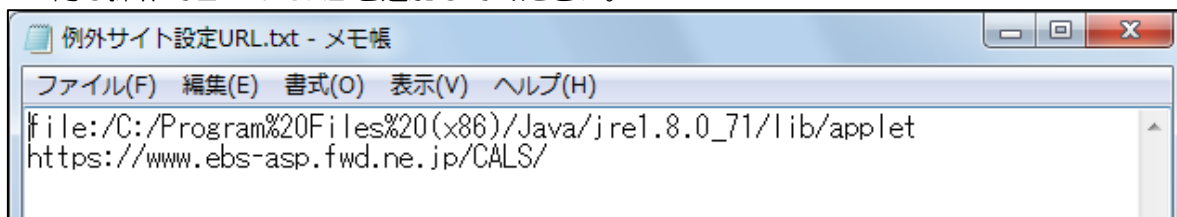


図6.2-6 例外サイト設定 URL

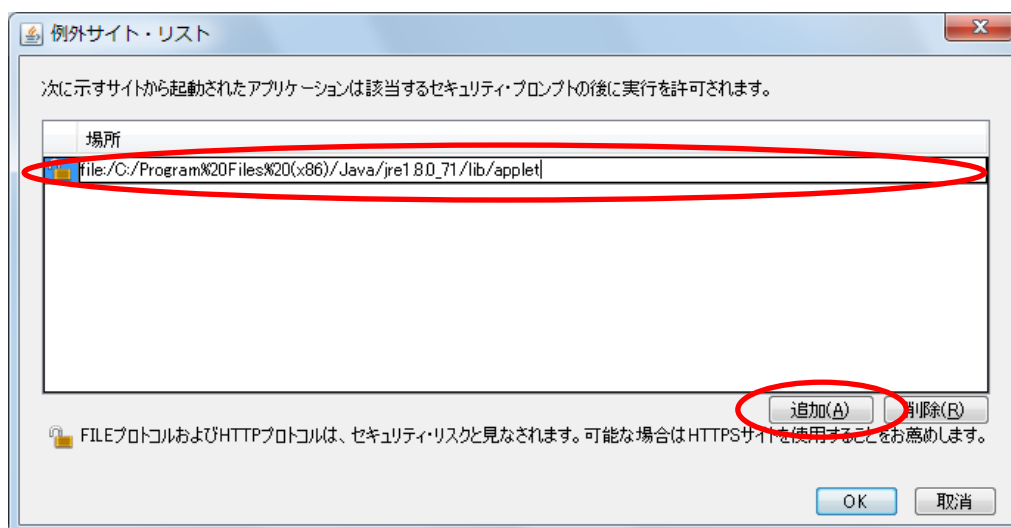


図6.2-7 Java コントロールパネル⑤

※以下のようなセキュリティ警告画面が表示された場合は、「続行」をクリックしてください。

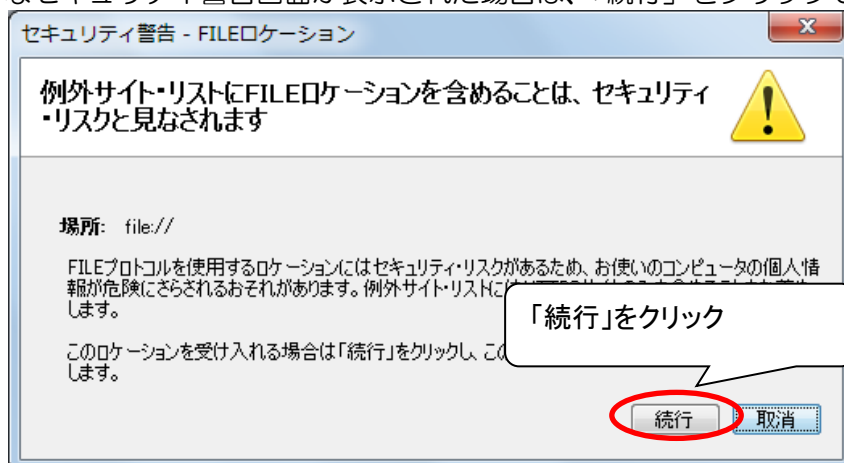


図6.2-8 Java セキュリティ警告

- (7) テキストファイル内の2つの URL が表示されていることを確認します。
「OK」ボタンをクリックします。

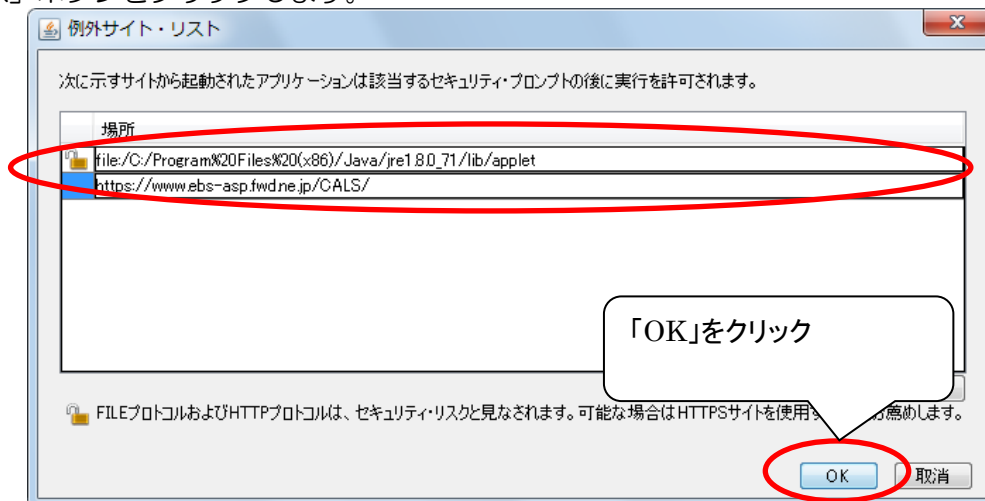


図6.2-9 Java コントロールパネル⑥

- (10) Java コントロールパネル内の「例外サイト・リスト」に入力した URL が表示されていることを確認してください。
確認後、「OK」ボタンをクリックします。

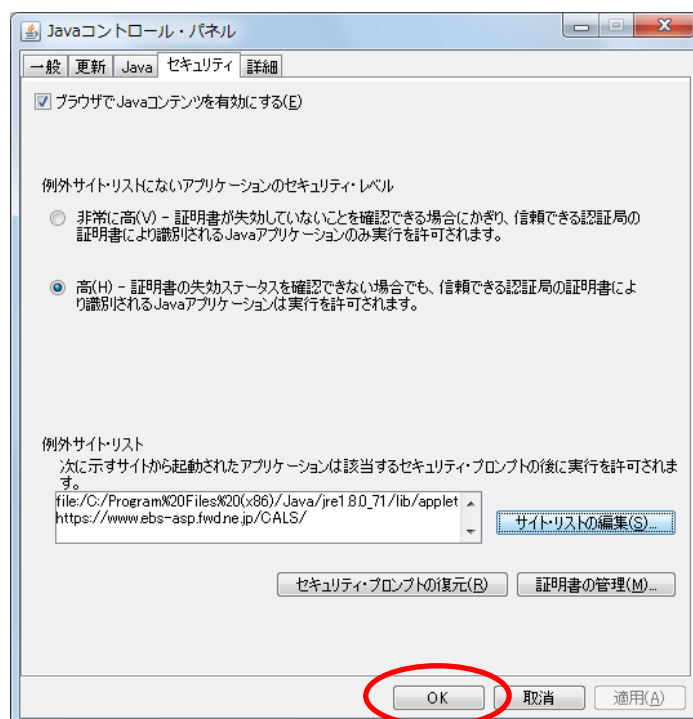


図6.2-10 Java コントロールパネル⑦

以上で Java の設定は完了です。

補足2 Internet Explorer の設定

電子入札システムを使用するには、Internet Explorer の設定も必要となります。
設定を行っていない場合は、下記手順を参照の上、設定をしてください。

・信頼済みサイトとポップアップブロックの設定

(1) 「Internet Explorer」を起動します。

(2) ツールメニューから「インターネットオプション」①をクリックします。

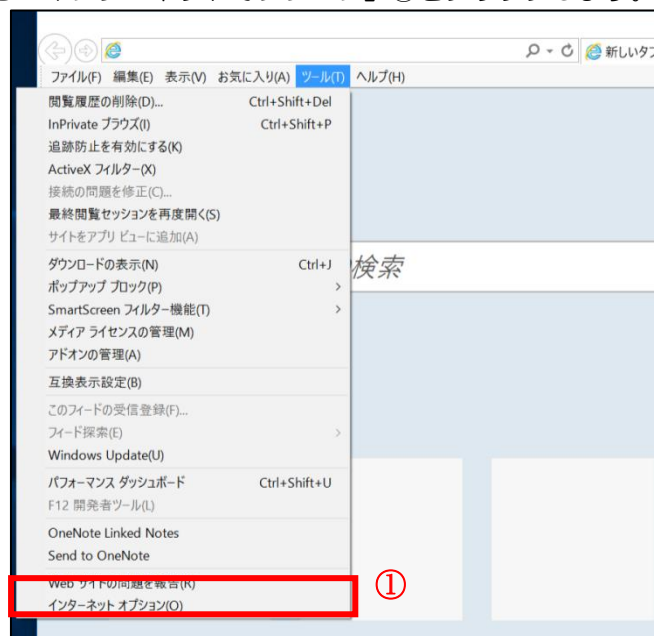


図 補足.1 Internet Explorer 画面

(3) 画面上部の「セキュリティ」タブ①をクリックします。

「信頼済みサイト」②をクリックし選択後、「サイト」ボタン③をクリックします。

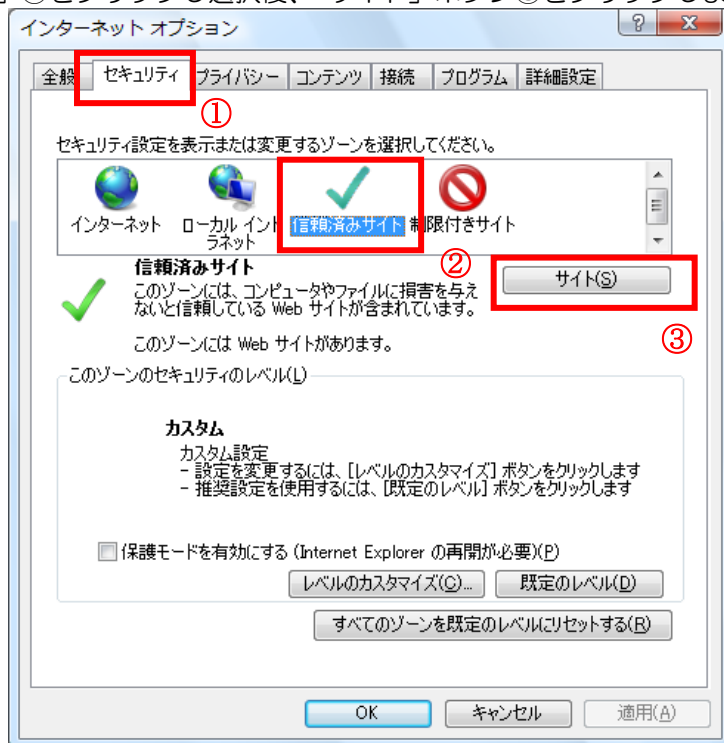


図 補足.2 インターネットオプション画面

(4) 「この Web サイトをゾーンに追加する」の入力欄①に以下の URL を入力し「追加」ボタン②をクリックします。

<https://www.ebs-asp.fwd.ne.jp/>

「Web サイト」欄 ③に追加した URL が表示されたことを確認し、「閉じる」ボタン④をクリックします。

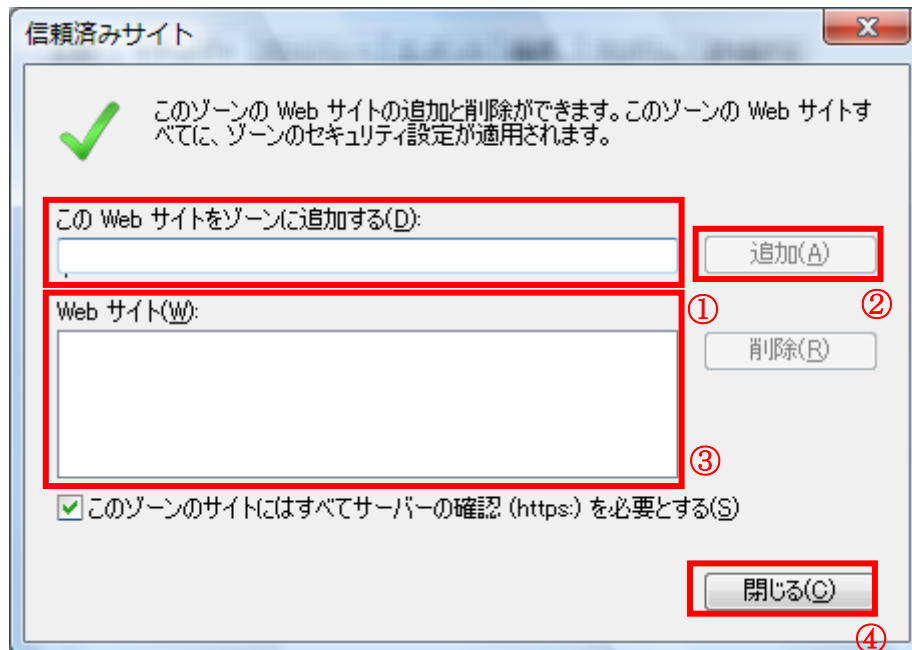


図 補足.3 信頼済みサイト

(5) 「インターネットオプション」画面の「レベルのカスタマイズ」ボタン①をクリックします。

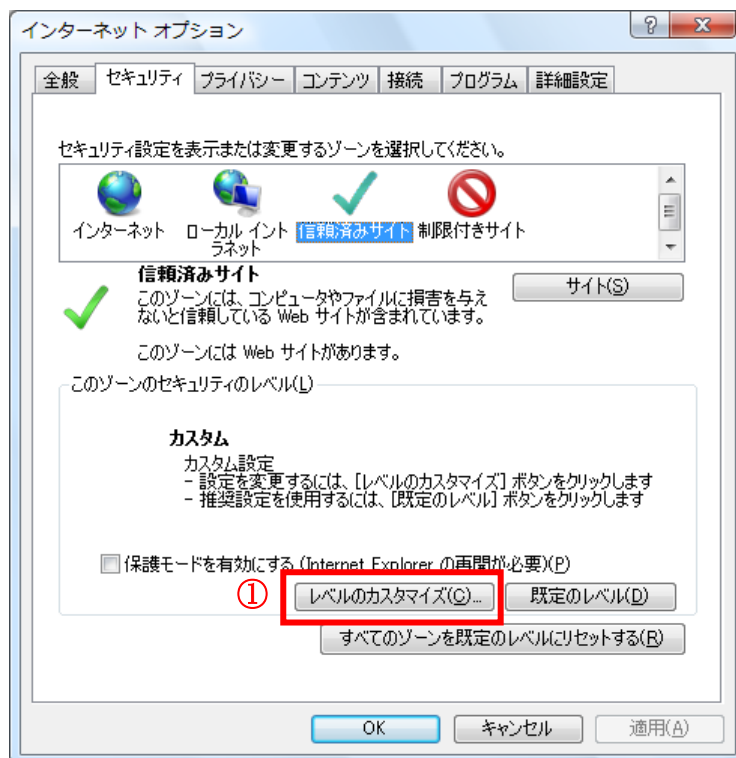


図 補足.4 インターネットオプション画面

- (6)「ポップアップブロックの使用」①を「無効にする」に変更します。
「OK」ボタン②をクリックします。

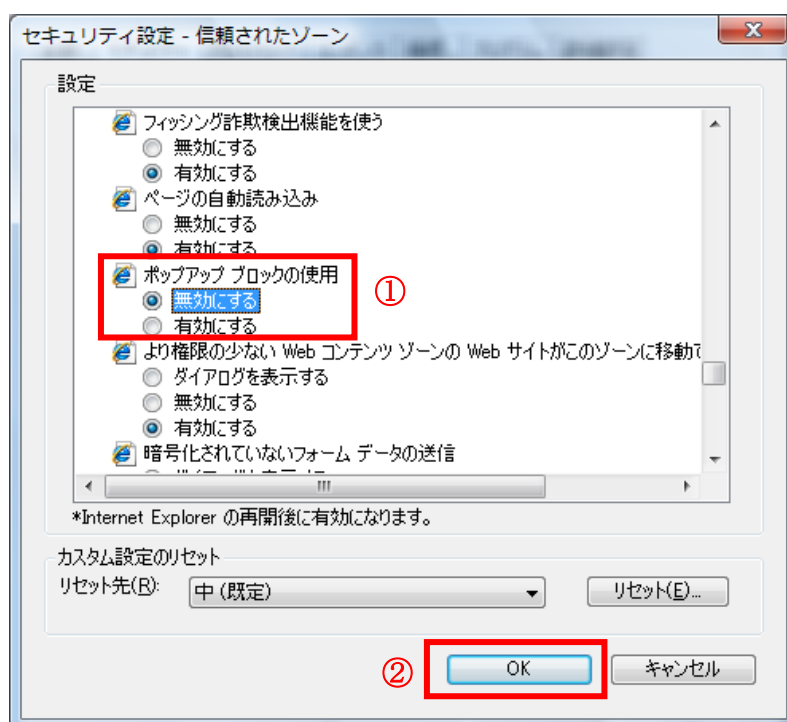


図 補足.5 セキュリティ設定画面

• 互換表示の設定

- (1)「Internet Explorer」を起動します。

- (2) ツールメニューから「インターネットオプション」①をクリックします。

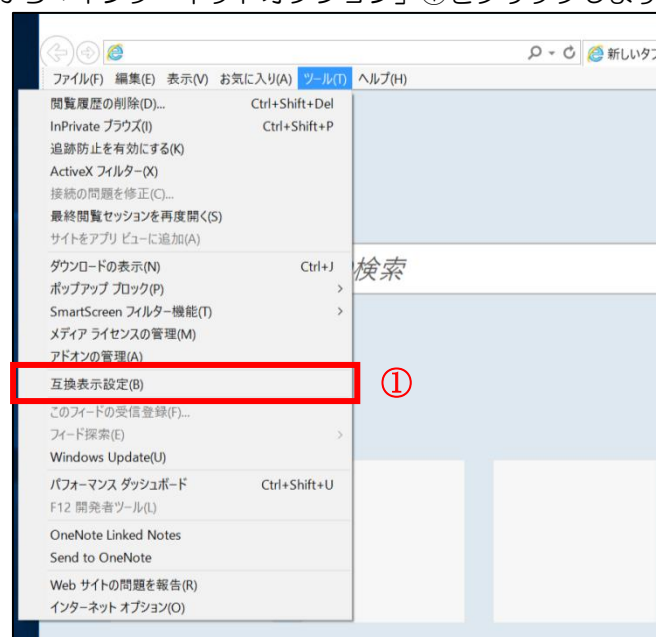


図 補足.6 Internet Explorer 画面

(3) 「追加する Web サイト」 欄①に以下を入力し、「追加」 ボタン②をクリックします。

fwd.ne.jp

互換表示に追加した Web サイト」 欄③に追加した項目が表示されていることを確認し、「閉じる」 ボタン④をクリックします。

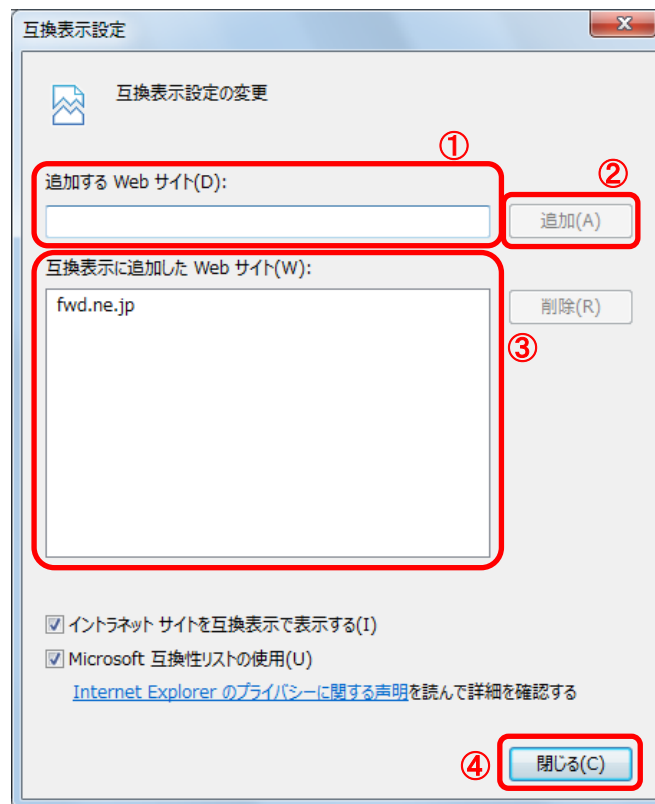


図 補足.7 互換表示設定画面

以上で Internet Explorer の設定は完了です。